

# 「代行」考

運転できない弱視のももこ  
が「代行」について大調査♪



Haruno Momoko

## 「代行」考 その1

---

友人のブログを何気なく読んでいた私は、次のくだりに思わず目が留まった。

「友達と飲んで、代行を呼んで家まで帰った。」

代行を呼んで・・・

ありふれた日常の一コマとしてさらりと書かれているこのくだりが、私にはとても珍しく、新鮮だった。

「友達と飲んで、代行を呼んで家まで帰った」

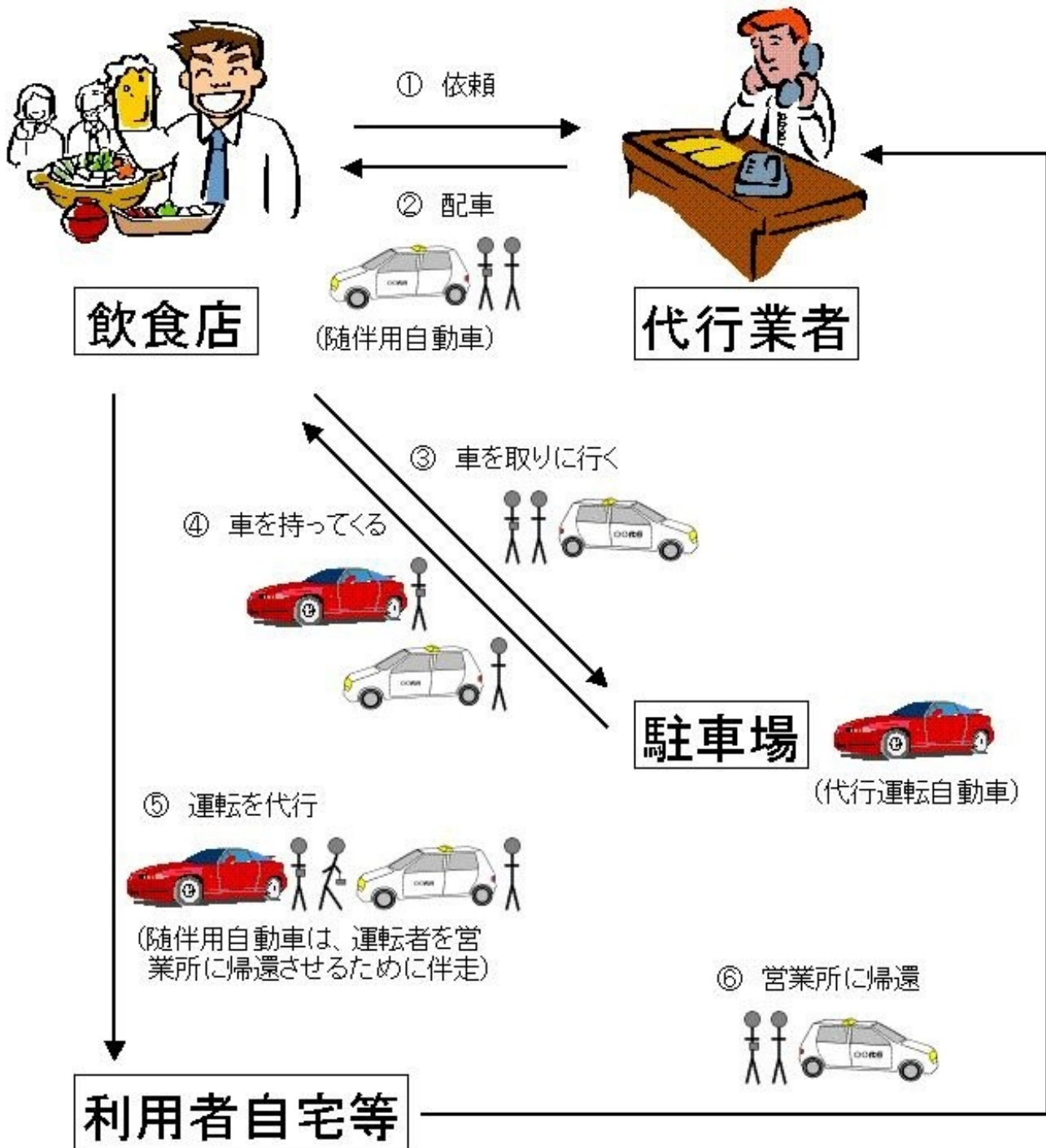
この言い回しから、車が主な移動手段となる地域では「代行」はかなり普及したサービスらしいことがうかがえる。

代行とは自動車の運転代行サービスのことだと知ったのはわりと最近のこと。

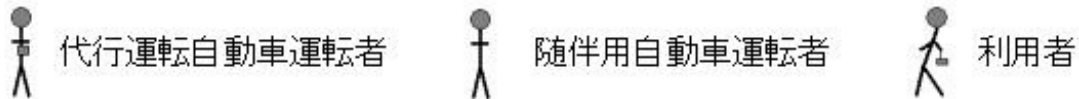
主にお酒を飲んで自分の車を運転できなくなった人が利用するサービスらしい。

車にもお酒にも縁がない私は、世の中にそんなサービスが存在するなんて全く知らなかった。

具体的にはこういう仕組みらしい。



備考



(神奈川県警察のサイトの図を転載させていただきました。)

依頼を受けた代行ドライバーは、二人一組で随伴用自動車にて依頼主が待つ現地に出動。  
 一人は依頼者の車を依頼者を乗せて運転し、もう一人は随伴車で伴走。  
 目的地に着いて依頼者を降ろすと、二人のドライバーは随伴用自動車で会社に戻る。

おお、何て合理的なシステム！  
 実際に依頼する時はどういう手順になるのかな？

いくつかの代行業者さんのサイトを見てみると、だいたいこんな感じらしい。

「ああ、酔っぱらっちゃった～もう運転できないや～」

となったら、代行業者さんに電話して、迎えに来てほしい場所と自分の名前、携帯番号を告げて代行運転を依頼する。折り返し代行業者さんからおおよその到着時刻が告げられる。

到着したドライバーは、あなたから車のキーを預かり、あなたを乗せて運転開始。

お友達も一緒に乗ってもらって、彼らを送ってもらうこともできる。

目的地（たいていは自宅）に着くと、随伴車のメーターに表示される料金をドライバーに支払ってサービス終了。

気になる料金は業者さんによっていろいろのようだが、たとえば横浜で営業する「運転代行 呑んだくれ」さんの場合は、「基本料金2kmまで ¥2,000（運転代行保険自動加入）。その後1km毎 ¥350」とのこと。

タクシーより割高かもしれないけれど、自分の車で安心安全に帰宅できるのだからありがたいサービスではある。

何と言っても予約の必要がないところが心強い。

「ああ、酔っぱらっちゃったなあ～もう、運転できないや～」

となってから代行業者に電話してしばらく待っていれば、迎えに来てくれるというのだからありがたいではないか。

公共交通機関が縦横に走る都会ではそのありがたさがいまひとつピンとこないけれど、車がメインの移動手段になっている地域では需要が大きいだろう。

考えてみれば日本の街のほとんどは車社会なわけで、運転代行は今やなくてはならないサービスと言えるようだ。

車にもお酒にも縁がない私は、「代行」について目にする事柄一つ一つが珍しく興味深く、「代行」をキーワードにネットサーフィンの最中、私の脳裏に、ふと、「あの時」が蘇った。

そういえば・・・

あの時、彼はなぜ、代行サービスを呼ばなかったのだろう？

## 「代行」考 その2

---

2010年の秋から一年あまり、私はニューヨークに暮らしていた。

東京ではあちらこちらのライブハウスに行っては弾き語ったり、友人たちとお喋りしたりという音楽三昧の日々を送っていた私のこと。

オープンマイク（アマチュアミュージシャンが誰でも参加できるライブイベント）の「本場」、ニューヨークに住んでいるのに、アパートでじっとしてられるはずがない。

アメリカ生活に少し慣れたころから、オープンマイク開催情報をネットで調べては、ギターを抱えてあちらこちらのライブバーやカフェに歌いに行った。

自分の出番で歌ったり、皆の演奏に聞き入ったり、その合間に参加者達とお喋りしたり。

楽しい時間はあっという間に過ぎていき、気がつけば12時近くになっていて慌てることになる。

東京であれば、12時過ぎの電車に乗って、駅からの夜道を一人で歩いて帰ってもまず心配はいらない。電車が動いている限り、安心して夜遊びできる。

しかし、ここはニューヨーク。

地下鉄やバスが24時間走っているとはいえ、深夜に一人で地下鉄に乗ったり、バス停で20分、30分とバスを待つのは怖い。

マンハッタンならば24時間黄色いタクシーが走っているが、私が暮らしていたのはニューヨーク市の郊外のクウィーンズというエリア。遊びに行くのもこのエリア内が多かった。

クウィーンズには流しのタクシーは走っていない。

そのかわりにカーサービス業者がたくさんあり、電話すればすぐに車が来てくれる。

帰りが遅くなった時は、お店に「カーサービスを呼んでください」と頼めばいい。

ただし、カーサービスの車はたいていカーナビを積んでいないので、アパートまでの道順を英語で説明しなければならず、これはこれで深夜の大冒険になるのだが。

では、オープンマイクに集まったアメリカ人たちはどうするかというと。

地下鉄で帰る人は、やはり11時には店を出るようだ。

遅くまで残っているのは車で来ている人たち。

ライブバーやカフェはアルコール類を出す店だ。

車組はお酒を飲まないかという、そんなことはない。

ワインやビールを1、2杯注文することが多いようだ。

それでも帰るころには酔いも覚めて（たぶん）、安全運転で（たぶん）我が家へ向かう。

．．．．．

しばらくあちらこちらのお店のオープンマイクめぐりをするうちに、馴染みの店ができてくる。アパートからバスと地下鉄を乗り継いで1時間ほどのところにあったその店に何度か通ううちに、クラシックギターを弾くおじさんと毎回のよう顔を会わせるようになった。

私が弾いている楽器もクラシックギターなので、おじさんと私は自然と話が合い、そして、たまたまおじさんの家が私のアパートの近くだったので、そのライブハウスの帰りはおじさんの車で送っていただくのがお決まりのコースになった。

そして、この紳士なおじさんにはライブハウス以外でも大変お世話になった。

楽器屋やコンサートに連れて行っていただいたり、ハリケーンがニューヨークを直撃した時は小型ラジオや懐中電灯を貸していただいたり。

奥さんと大学生のお嬢さんと一緒に何度もレストランで食事をご一緒したりもして、家族ぐるみのおつきあいをさせていただいていた。

．．．．．

それは、日本から友人が遊びに来て、私のアパートに何日か泊まっていた時のこと。

「ももこの友達と一緒に食事に行こう」とおじさんが誘ってくださり、おじさんと、私の友人と私の3人で、アパートから車で30分ほどのところにあるコリアン・タウンにおじさんの車で連れて行っていただいた。

3人の楽しいお喋り。美味しい食事。

おじさんはいつになく上機嫌で、普段はそんなに飲まないお酒を、その夜は何杯もお代わりする。

そして・・・

## 「代行」考

<http://p.booklog.jp/book/97146>

著者 : harunomomoko

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/harunomomoko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97146>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97146>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ